

また、四党合意は「関連訴訟の取り下げ」も言っており、バッチの労働委員会命令などもすべてどろくに捨てよと要求をしています。夫もやった神奈川事件では、最高裁でも勝ち、謝罪もお金も勝ち取りました。

なのに、なぜバッチの労働委員会命令を捨てなければいけないのですか。訴訟を取り下げたら、元も子もないやありませんか。「国労バッチ闘争」は、決して亡き(夫義春)一人の闘いではありません。神奈川での4次にわたる勝利の積み重ねが、夫を孤立させていないからです。夫の熱い闘いは、闘う人達との共感へとつながっています。亡くなった今も、仲間達を激励しています。国労の人達の私への応援は、夫が託したように、私が活動的になっている事です。夫が亡くなったも、夫(義春)への共感と国労バッチ闘争は今でも生きている。仲間の人達は、私が最後までやり通すと言うと、たったら自分達も最後まで応援するよと言って「ガンバリ」と声をかけてくれています。国労の人達は常に私を応援してくれています。

会社が処分を重くしたのは、夫がバッチを付け続け、国労本部のように従順な姿勢を示さなかったからです。正しい闘いをつらぬいて何が悪いのですか。

都労委で申立人として、共に闘っている豊田運輸区分会の中村幸夫さんは、国労大会で逮捕された事を理由に、運転士を外されて草むしりをやらされました。その裁判は最高裁でも勝ちました。反執行部の組合活動を会社が嫌悪した」と認めています。

夫は中村さんの最高裁の勝利判決は自分の勝利でもあると私も天と共に確信しました。

この高裁で裁判官が会社に対し厳しい判断をする事を望みます。

私も3人の息子や^{補佐}林孝人と歩んで来た仲間達の為に、そして、亡き夫(義春)の為にも勝利報告が出来るよう精一杯にガンバリます。
辻井 まゆみ